

壮大なスケールと鮮烈な感動でつらぬく永遠の大ロマン!

原作アーネスト・ヘミングウェイ

誰がために鐘は鳴る

ゲーリー・クーパー

イングリッド・バーグマン

エイキム・タミロフ/アルテュロ・デ・コルドバ/ジョセフ・カレイア

巨匠サム・ウッド 監督

脚色ダッドリー・ニコルズ/撮影レイ・レナハン

音楽ビクター・ヤング

"FOR WHOM
THE BELL TOLLS"

テクニカラー

動乱のスペインに炎と燃えさかる若き二つの魂——
ノーベル賞作家ヘミングウェイが描いた愛と死の4日間!

誰がために鐘は鳴る

FOR WHOM THE BELL TOLLS

《スタッフ》

製作・監督…………サム・ウッド
 脚色…………ダッドリー・ニコルズ
 音楽…………ビクター・ヤング
 撮影…………レイ・レナハン
 原案…………アーネスト・ヘミングウェイ

《キャスト》

ロバート…………ゲリー・クーパー
 マリア…………イングリッド・バーグマン
 パブロ…………エイキム・タミロフ
 ピラー…………カティナ・パキノー
 アグステン…………アルテュロ・デ・コルドバ
 アンセルモ…………ウラジミール・ソコロフ

C I C 配給

《映画のあらすじ》

一九三七年のスペインは、国中がファシスト派と共和政府派に別れて内乱にあげられていた。
 アメリカ人でカレッジの教授だったロバートは、正義と自由のために自らゲリラに身を投じて、数々の活動が続けてきた。しかし、敵の攻勢は強力だった。ロバートの次の任務は、相手の重要な輸送路となっている山峡の鉄橋を爆破することだったが、そのためにはほとんど死の覚悟を必要としていた。

案内人のアンセルモと目的の山に入ったロバートは、その辺一帯のジブシーの一家に協力を要請したが、頭目のパブロにはねつけられた。許される時間のないロバートは単身任務にはげんだ。自分を捨てた彼の行動に打たれたパブロも、ついに仲間になってくれた。パブロの家に町長の娘マリアも身を寄せていた。両親を殺されながらかろうじて逃げのびた彼女をパブロの妻ピラーが助けてくれたのだ。若いロバートとマリアは戦火の中で互に引かれた。マリアにとってそれは初めての恋だった。そんな二人にピラーは何かと気をくばってくれた。

やがてジブシーたちの行動を知った敵は、部落を爆撃し、軍隊を出動させてきた。鉄橋の爆破は急を要した。ゲリラ隊は山あいをぬうように近づき、橋に爆薬を仕掛けたが、突然、敵の戦車があらわれ、味方に大きな損害が出た。しかし、ロバートの活躍で橋は見事に爆破された。だが、その場から逃れるためには敵の一斉射撃を避けなければならなかった。ロバートの援護射撃でマリアも、パブロも、ピラーも無事に逃れたが、最後のロバートだけは機関銃の集中射撃をあびて重傷を負った。自分がとうてい助からないことを知ったロバートは泣き叫ぶマリアをピラーにあずけて言った。

『早く逃げろ！ここは俺が守る』
 銃をとり直したロバートは、うすれる視界の中にみえる敵に火ぶたをきった。



《映画のポイント》

★原作はノーベル賞作家で、アメリカ最高の文豪アーネスト・ヘミングウェイの長編小説。彼の小説は『死のにおいがする強烈な個性』と評されているだけに、映画化される事も多く、他に『武器よさらば』『老人と海』『キリマンジャロの雪』など映画としても高い評価を得ている。
 ★製作・監督のサム・ウッドは『我等の町』『サラトガ本線』などハリウッド黄金時代に知られた名匠、脚本は『駅馬車』などジョン・フォード作品でおなじみのダッドリー・ニコルズ、音楽も『シエーン』の名手ビクター・ヤングなど、ハリウッド最高のスタッフが腕を競っている。
 ★出演は、ゲリー・クーパーとイングリッド・バーグマンという当時人気最高の大スターの初共演ということで、話題が話題を呼び、世界的に大ヒットとなった。助演者も『トプカピ』のエイキム・タミロフ、この映画でアカデミー助演賞を得た『若者のすべて』のカティナ・パニシノーなど名優たちで脇を固めている。
 ★髪を短かく切ったバーグマンの初々しい演技や、クーパーとのラブ・シーン、そして胸をうつ感動と涙のラスト・シーンなど見る人の心に深く残る名場面の数々——ロマンとアクションが見事に融合した傑作と呼ぶにふさわしい超大作である。

《二人の主演者》



●ゲリー・クーパー Garry Cooper

一九四一年『ヨーク軍曹』一九五二年『真昼の決闘』と二度にわたってアカデミー主演男優賞に輝いた、文字通りアメリカ映画の黄金期を築いた大スター。一九〇一年に生まれ、た彼は大学では美術を専攻し、マンガ家志望だったが、エキストラとなったことをきっかけに二五年に俳優となった。以来、アメリカの良心と開拓者の素朴な真情を看板にかかげたような個性でトップスターの座を続け、晩年はオードリー・ヘップバーン相手の『昼下りの情事』など洗練された役柄も光っていた。一九六一年五月、ガンで死亡するまでに八九本の映画に出演、その年のアカデミー特別名誉賞を受けている。

●イングリッド・バーグマン Ingrid Bergman

一九四四年『ガス燈』一九五六年『追想』と、彼女も二度アカデミー主演女優賞を受けている名実ともにハリウッドの大スター。一九一六年スウェーデンに生まれ、演劇学校を卒業してドイツ映画界で活躍していたが、三八年に『別離』でアメリカ映画にセーシーショナルなデビューを飾り、ハリウッドに定着した。しかし、五〇年に夫と一女を捨ててイタリアのロベルト・ロッセリーニ監督のもとへ走り、アメリカから追放された形になった。だが、五六年『追想』でアメリカ映画にカムバックし、再び映画界に君臨する人気女優となった。昨年の『オリエント急行殺人事件』でアカデミー助演女優賞を獲得して大物ぶりを示している。

感動の超大作いよいよ

3月13日(土)よりロードショー!!

丸の内松竹

(201) 3720

有楽町朝日新聞社ウラ